

134 No. 14: グレーターベイエリア構想 【融合と発展、変貌に対応】 (平成 30 年 12 月)

2018 年 9 月、香港と中国広東省を結ぶ高速鉄道(広深港高鉄)が運転を開始した。さらに 10 月には、香港、マカオ、広東省珠海市を結ぶ 55 キロメートルの橋(港珠澳大橋)が開通し、その開通式典は習近平国家主席が主宰した。

これらは、中国政府が進める「グレーターベイエリア構想」の基本計画の中心になる。広東

省内の都市と香港・マカオを合わせた 11 都市が有機的に結びつき、香港・マカオの一国二制度を維持しつつも、地域の融合と発展を目指す。地域人口は中国の総人口の 5%程度だが、国内総生産(GDP)は 1 兆千億ドルで中国全体の 1 割を占め、その規模は韓国と並び、タイやフィリピンなどの 3 倍以上となる。

牽引するのは、自動車産業集積地の広州市、イノベーション都市の深圳市、そして、香港・マカオの 4 都市であるといわれる。

深圳市にはイノベーションを目指す企業や人材が集まり、広州市と周辺地域には「世界の工場」としての重厚なサプライチェーン(部品の調達・供給網)が形成され、今後もその役割が期待される。

香港はどうか。香港は、世界有数の貿易・国際金融都市であるが、イノベーション・科学技術の発展も目指す。日本貿易振興機構(ジェトロ)調べによると、GDP に占める研究開発比率は 0.8%程度と低く、産業構造も貿易・金融のウェイトが大きく、イノベーションへの課題は大きい。

習近平国家主席は、「香港をイノベーションの国際的な拠点とする構想」を支持しており、香港政府が広東省と連携して「イノベーション」を推進する動きがある。香港は、一国二制度の環境下、知的財産権の保護、法の支配が徹底されており、中国本土のそれとは圧倒的に優位性が高い。

そのため、香港は、大学・研究機関などと連携し「高度な(基礎)研究、知的財産にかかるイノベーション」などを牽引することが期待されているようだ。

香港政府の動きに即して一部の日系金融機関は、香港でのスタートアップ企業への支援(研究開発、投資機会発掘)に乗り出した。当事務所としても当地でのイノベーションに関する情報収集を始めている。

グレーターベイエリア構想で、香港・華南地区が大きく変貌していく。企業の生産・貿易を目的とした進出ニーズは徐々に変化をしていくと予想され、その態様をフォローしていきたい。

